

第 3 次久米島町総合計画

基本構想の検討

目次

総合計画のしくみ	01
1. 第 3 次総合計画立案の考え方	02
2. 第 3 次総合計画の全体構成イメージ	03
3. 立案のフロー	04
4. 将来像・基本目標（案）設定の考え方	05
5. 将来島づくり空間構想	07
6. デジタル技術の活用	10

2 0 2 5 年 3 月時点
総合計画検討事務局
(久米島町企画財政課)

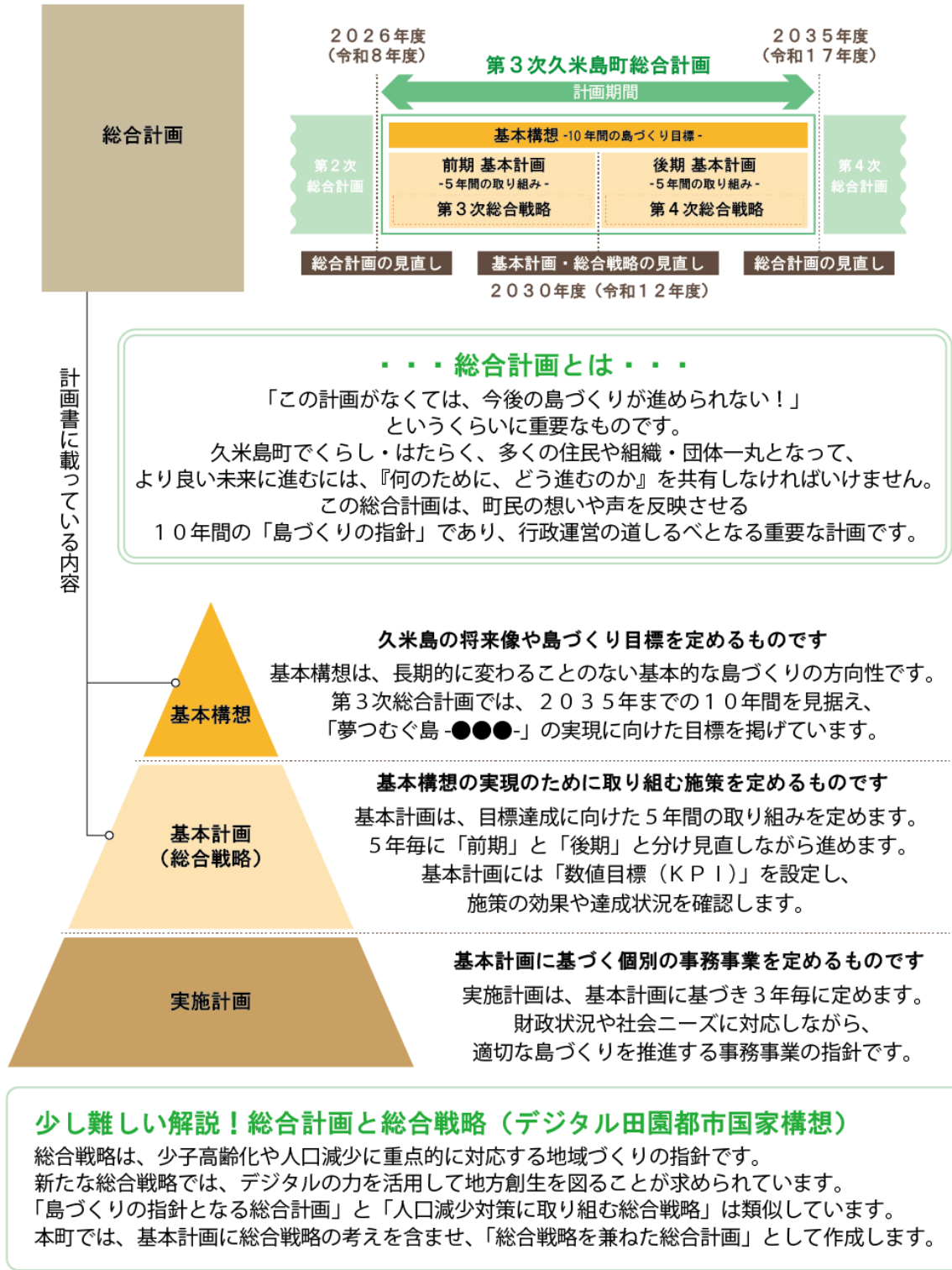
総合計画のしくみ

総合計画は市町村における最上位計画

- 久米島町総合計画は久米島町の行政運営における指針であり、各事業を実施する上で、根拠となる最上位計画である。
- 総合計画は概ね 1 0 年間の方向性（基本構想）と 5 年毎の具体施策（基本計画）を示す。

総合戦略を兼ねた総合計画として策定

- 久米島町総合計画においては、地方創生として示す地方版総合戦略（デジタル田園都市国家構想）を兼ねるものとして、基本計画にその役割と K P I を含ませる。



1.第3次総合計画立案の考え方

第2次久米島町総合計画(2016年～2025年)

将来像「夢つむぐ島～みんなで織り上げる未来～」

- 人口目標：2025年（令和7年）の人口目標8,500人→未達成。少子超高齢化・人口減少が進行。

島づくり目標(基本構想)

- 人を惹きつける島
- 全ての世代が生き活きと暮らせいる島

特徴①：ライフステージに応じた7つの目標と、交流の目標を基本目標で掲げる

特徴②：8つの基本目標のもと、44の施策の柱を設定

基本計画(後期)

- 8つの基本目標と44の施策の柱に応じて、具体施策を設定
- 44の施策毎に1～4つ程度（多いもので8つ）の目指そう指標（KPI：重要業績評価指標）を設定

第2次総合計画の評価・課題

- コンパクトにデザインされた後期基本計画は、行政職員のみならず小中学校の教材、各種団体の参考資料として活用された。
- 施策全体の76.3%が達成若しくは実施中で、次期計画へも拡大・継続として評価された。
- 一方、見直し・縮小、要検討とされた施策も一定見られた。
- 44に細分化された施策の柱だったことから、類似する施策が多数見られ、施策の整理・統合が望まれた。
- KPIの数値集計・整理が困難だったことから、容易に集計・管理、評価が可能な指標が求められた。
- 第3次総合計画では、人口ビジョンの見直し、コンパクトな施策整理、効果的かつ集計が容易なKPIの設定が必要である。



第2次計画の想いを引き継ぎ進化させる。久米島らしくあり続ける。

第3次総合計画検討で大事にしたいこと

「地域らしさ」と「SDGs」

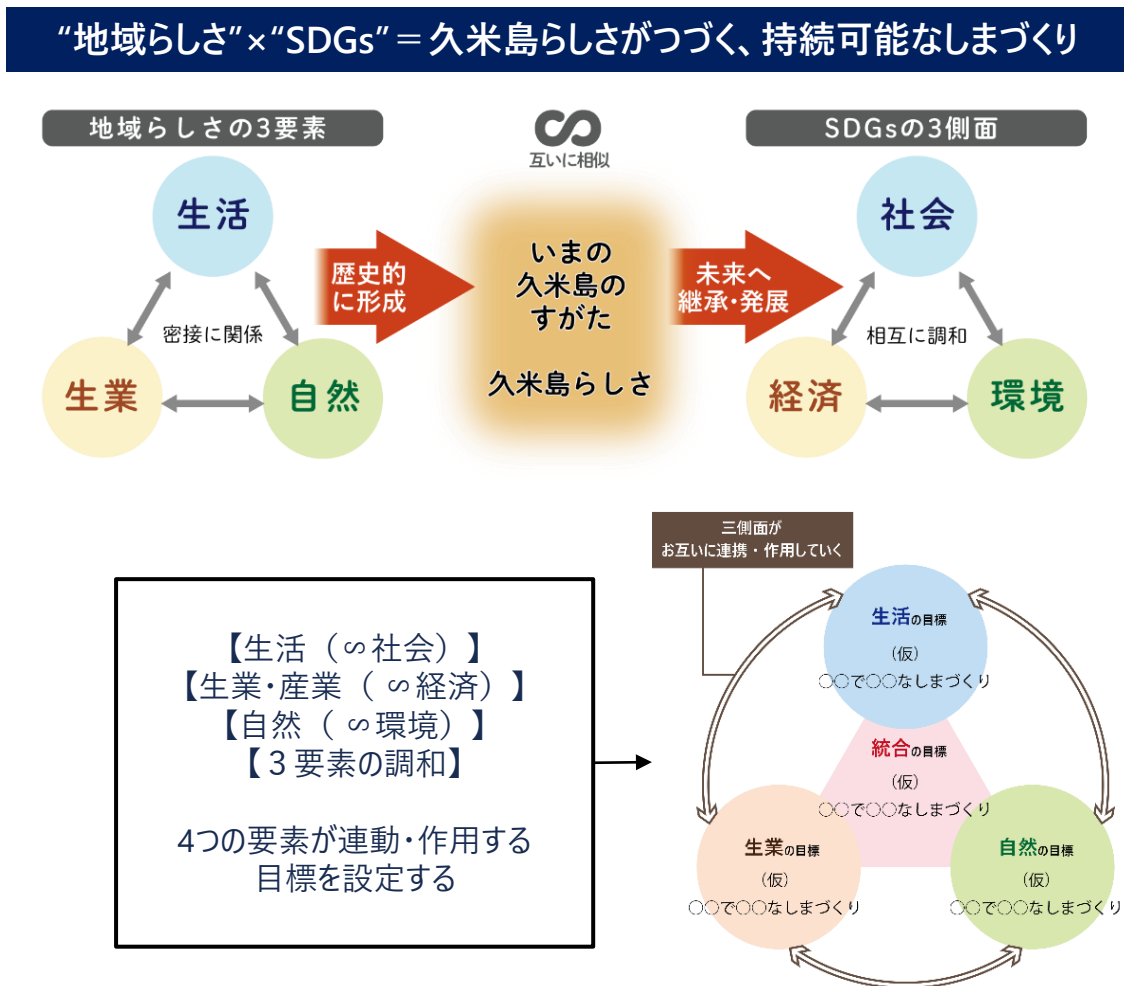
第2次久米島町総合計画で掲げられた将来像、「夢つむぐ島～みんなで織り上げる未来～」を受け継ぎながら、久米島町らしく発展していくことが次期計画の役割と認識します。

昨今の『持続可能な開発目標（SDGs）』の理念を総合計画にも取り入れ、『地域らしさ』が持続するための指標となる計画づくりに取り組みます。

『地域らしさ』とは、歴史的に形成されてきた【自然（環境）】【生業（産業）】【生活（暮らし）】から構成されるもので、久米島の自然環境の上に築かれた人々の暮らしや文化が、現在の『久米島らしさ』と言えると思います。

一方、『SDGs』は、あらゆる側面で持続可能な開発を実現するために、「環境・経済・社会の三側面を統合する必要がある。」とされています。

このように、『地域らしさ』と『SDGs』は、【自然＝環境】【生業＝経済】【生活＝社会】と、互いに相似しています。『久米島らしくあり続けることが、持続可能な開発・しまづくり』と言えます。



久米島らしさとは？

- 琉球王朝時代に貿易拠点として発展した球美の島
- 織り機や木槌の音、泥や草木の香り、風になびく久米島紬
- 伝統的な屋敷やフクギ並木から形成する集落景観
- 島の豊かな森林や河川に生息する多様な生き物たち
- 絶景の景色が広がる白い砂浜やビーチ
- 豊富な水資源に享受された稲作（棚田）やサトウキビ畑
- 隆起珊瑚礁に由来する海域を活かした水産業と海洋深層水事業
- 伝統行事や地域のお祭りで賑わう島人の真剣な顔・笑顔

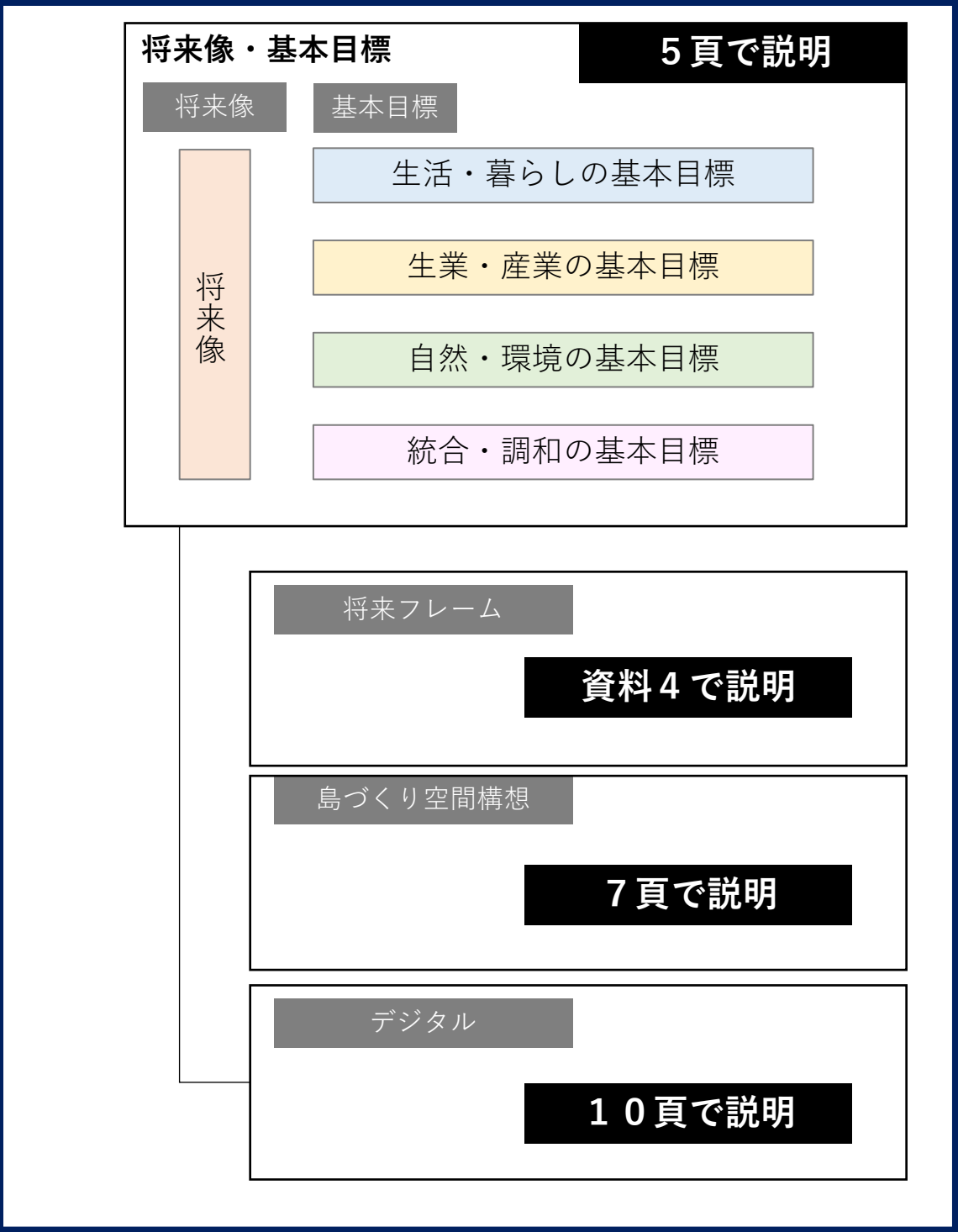
・・・ And more ・・・

全部久米島を語る上で必要不可欠な要素！
「失ってはいけないもの」
「島の武器として磨いていく必要があるもの」
他にもたくさんある！

2.第3次総合計画の全体構成イメージ

第 3 回審議会（本日）の検討・確認事項

基本構想

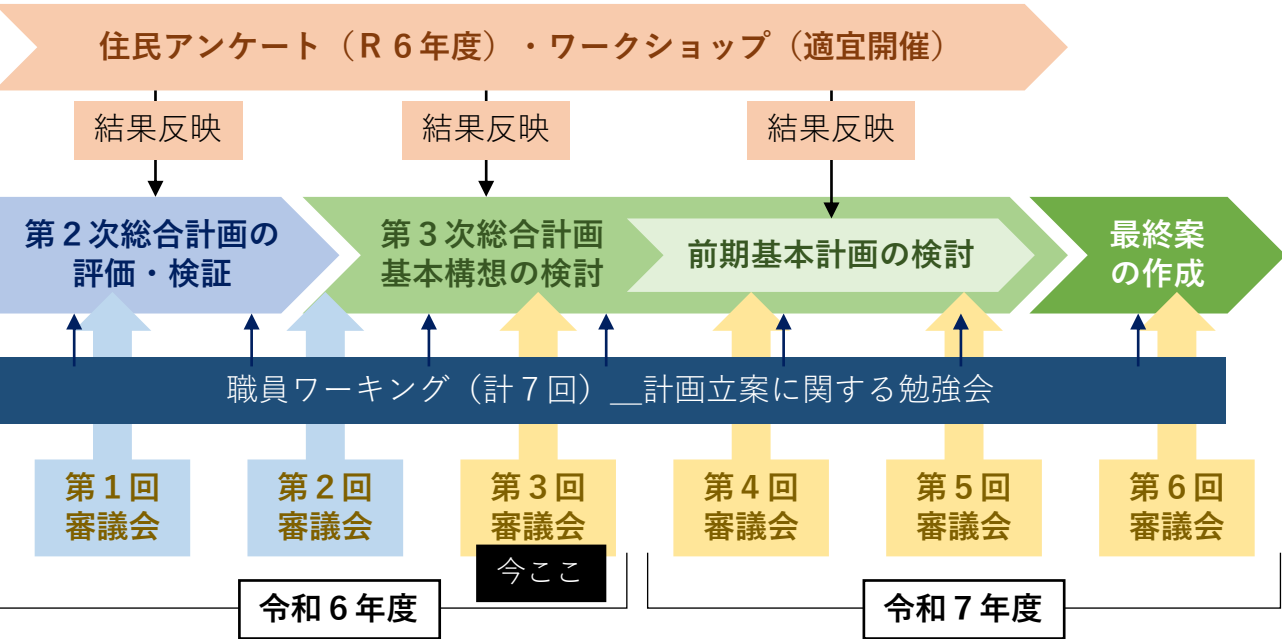


第 4 回以降の審議会の検討・確認事項

基本計画（5 年毎に見直し） * 以下、仮設定



3. 立案のフロー



住民意向調査と反映内容

アンケート関係

住民アンケート(令和6年7月1日～7月31日)

- 島での「くらし」について（満足度）➡評価検証へ反映、目指そう指標（K P I）の参考
- あなたが思う・感じている久米島らしさについて➡基本構想へ反映
- これからの久米島について➡基本構想・基本計画へ反映

中学生・高校生アンケート(令和6年9月～11月)

- 島への愛着・誇り、暮らしの満足度➡評価検証へ反映、目指そう指標（K P I）の参考
- 久米島高校について➡基本計画へ反映
- 将来の久米島について➡基本構想・基本計画へ反映

関係団体ヒアリング関係

経済5団体・教育及び福祉関係団体

- これまでの10年➡評価検証へ反映
- これからの10年➡基本構想へ反映
- 働き方の視点、各産業の方針➡基本計画へ反映

ワークショップ関係

中学生ワークショップ(球美中・久米島西中__実施済み)

- 島づくりの将来像➡基本構想・基本計画へ反映
- 将来像を達成するために➡基本計画へ反映

ママさんワークショップ(令和6年12月15日)

- ママさん目線の暮らしの課題➡基本計画へ反映
- 島づくりの期待・要望➡基本計画へ反映

産業交流型意見交換会(令和6年12月16日)

- 産業の望ましい姿（産業間連携の在り方）➡基本計画へ反映
- 現状と課題・解決策➡基本計画へ反映

地域住民ワークショップ(令和7年2月26日)

- 久米島らしさ・活かし方➡基本計画へ反映
- 将来像➡基本構想・基本計画へ反映

審議会の審議内容

評価委員会の役割

第1回審議会（令和6年9月26日）

- 総合計画と総合計画の役割、現状データの確認
- 人口ビジョンの検証と方向性
- 現行計画評価・検証

第2回審議会（令和6年9月26日）

- 住民アンケート・関係団体ヒアリング結果
- 第3次総合計画への課題認
- 産業構造を軸とした将来フレーム（たたき台）

役割の切り替え振り返りながら適宜検討

新計画の策定委員会の役割

第3回審議会（令和7年3月27日）

- 産業構造を軸とした将来フレーム
- 基本構想の検討（将来像・基本目標、将来島づくり空間構想、デジタル方針）

第4回審議会（令和7年7月予定）

- 基本構想修正案
- 基本計画の骨子
- リーディングプロジェクト案

第5回審議会（令和7年11月予定）

- 基本構想（たたき台）
- 目指そう指標設定方法

第6回審議会（令和8年2月予定）

- 最終案の確認
- 普及版（概要版）の確認

職員ワーキング(計7回)の内容

準備回（令和6年9月）

- 総合計画の役割、望ましい計画デザイン

第1回（令和6年10月）

- 現状_これまでの10年間
- 課題_これからの10年間

第2回（令和6年12月）

- 地域らしさの活かし方
- 久米島らしさの把握
- 将来像の検討

第3回（令和7年5月予定）

- 基本構想の確認
- 久米島のSDGs
- 持続可能な島づくり施策

第4回（令和7年9月予定）

- 地域政策の考え方
- 重点施策の検討

第5回（令和7年12月予定）

- 基本計画の確認
- 施策毎の指標検討

第6回（令和8年1月予定）

- 総合計画最終案の確認

4. 将来像・基本目標(案)設定の考え方

◆基礎情報の考察(第2回審議会 資料4)

①上位関連計画及び近年の潮流(第2回審議会 資料4)

- デジタルの力を活用した、社会課題の解決や幸福度の向上。(デジタル田園都市国家構想総合戦略)
- 「誰一人として取り残さない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現」の達成を視野に入れたまちづくり。(SDGsの理念)
- 住民の生活水準の向上を目的としたコンパクト化、デジタル化。
- スマートシュリンクを前提とした課題解決のアプローチ。
- 久米島らしい自然・景観・文化等の保全・継承と、新たなビジネスの推進力となる環境づくりや地域のブランド価値の向上。

②基礎データ(第1回審議会 資料2)

- 自然増減・社会増減ともにマイナス、特に生産年齢人口の減少が顕著であり、今後も人口の減少が予測される。
- 各産業の就業者数及び総生産額は概ね減少傾向。
- 町内全域で空家が増加傾向。特に人口の多い地域に空き家が多い。
- 文化財等地域資源が島内に点在。

③現行計画評価検証(第1回審議会 資料4・参考資料1)

- 第2次総合計画が計画的に推進され、一定の効果が得られた。
- コンパクトで利便性の高い島づくりが望まれている。
- 産業振興：多様な産業間連携やマルチワークの推進、テレワークやワーケーションに関する環境整備も重視。
- 教育分野：学力や体力向上に関する環境整備、放課後の居場所づくりが必要。久米島高校魅力化の継続的な推進。
- 医療・福祉分野：専門職の人材不足が最重要課題。
- 生活基盤：交通、住宅、エネルギーでの持続的発展。
- 歴史・文化・自然環境：重要な資産として、保全と活用の両立。

④住民アンケート(第2回審議会 資料1より)

- 島外出身者の居住年数が短く、移住者の定住が課題。
- 「しごと」が人を呼び寄せている。
- 居住を継続する上で住民サービスや生活インフラ面が不安。
- 継続的な教育支援や島内教育の充実が必要。
- 自営業者の継続的経営のための支援・指導が望まれる。
- 女性及び若年層の幸福度が相対的に低い結果となった。
- 自然・景観・環境に関する満足度が高い一方、娯楽や医療・福祉、仕事、公共交通等に関する満足度が低い結果となった。

⑤関係団体意向調査(第2回審議会 資料2より)

- 全ての産業で人材不足、住宅不足が深刻な問題。
- 多くの産業で観光業との連携した消費拡大が望まれている。
- 産業生産施設・基盤及び医療・福祉施設の老朽化が問題。
- 農業・水産業：分野横断型マルチワーク、生産体制の強化、生産性向上や働き方の効率化のための取組や、地消地産の推進が必要。
- 商工業：担い手不足・事業承継が最重要課題。商店街の活性化等による、人が集まる仕組みづくりも必要。
- 観光業：産業間(業種間)が連携した、消費拡大の仕組み構築が必要。観光受入窓口のスマート化が必要。
- 久米島紬：商品単価上昇により、経営状況好転。観光業との連携強化が必要。織子の高齢化、織子不足が課題。
- 福祉・医療：専門職人材の確保が最重要課題。
- 子育て・教育：子どもの減少に伴う、学校の統合等の対応が必要。専門職人材不足への対応や、行政・地域・学校の協力体制強化が望まれている。

◆課題整理(第2回審議会 資料4)

●生活(社会)に関する課題

- 離島の生活面での条件不利性を克服し、子育て・教育、医療・福祉等に関する住民サービスの充実を検討。
- 住民サービス業に従事する人材の確保・育成。
- 医療・福祉の機能維持のため、更新や大規模修繕を検討。
- 文化・コミュニティ等の保全・継承。
- 移住、定住促進のため住宅及び住環境の整備や支援策の実施、生活インフラの充実を検討。
- 住民及び観光客等の利用を想定した、島しょ型交通体系の整備・運用を検討。

●生業・産業(経済)に関する課題

- 住民による島内消費率を拡大させるとともに、観光等来訪者の消費拡大等、地消地産の推進。
- 島外への商品・サービスの提供、島外企業の業務を島内にいて受けることのできる人材の移住や育成・環境の整備等、島外需要の創出。
- 各産業同士のマルチワークや協業による商品開発・消費拡大等、産業間が連携し、相乗効果を創出できる横断的な産業振興及び、それに伴う雇用拡大。
- 農作物や水産物の島内流通ルート開拓・構築、新規需要創出、産物の価値向上等、一次産業の活性化及び担い手確保。
- 商業・サービス業の担い手確保、商店街の活性化等人が集まる仕組みやエリアの構築を検討。
- 各産業の島内消費量を拡大させるためにも、観光の振興は必要不可欠である。地域資源を最大限活用した観光振興を検討。
- 生産環境の改善に向けた産業基盤の更新・リニューアル、スマート化検討。

●自然(環境)に関する課題

- 自然・景観・文化財等を保全・継承するとともに、その価値を共有できる観光客を受け入れるレスポンスブル・ツーリズム(責任ある観光)に資する地域資源として活用。
- 生活や産業からの排水や廃棄物の適切な処理と、循環型社会の構築により、環境負荷の低減を図る必要がある。
- 脱炭素やカーボンニュートラルの実現に向けた再生可能エネルギー自給率を向上させる必要がある。

●横断的な課題

- 人口減少への打ち手については、島内産業の雇用状況や、住宅政策等幅広い分野にわたる課題であり、「産業の活性化」及び「雇用機会創出」を考慮した人口フレームの検討が必要。
- 久米島の地域特性に合ったデジタル技術の導入・活用の推進。
- 今後の人口減少局面において、コンパクトで利便性の高い島づくりが必要であると考えられるため、今後の環境整備の方向性を示す空間構想づくりが必要である。
- 「生活(社会)」、「生業・産業(経済)」、「自然(環境)」が連動し、課題解決に向かうための体制(庁内連携、官民学連携)強化。

◆将来像

【将来像案出の考え方】

- 第2次総合計画では、「夢つむぐ島 一島人みんなで織り上げる未来」を将来像に掲げ、島人がつながり合い、久米島紬の縦糸と横糸のように夢と営みを「つむぐ」姿を理想としたしまづくりを行ってきた。
 - 島人みんなで織り上げる「夢つむぐ島」は第2次総合計画から引き続き描きながら、「久米島らしい未来」への歩みにさらにフォーカスしたしまづくりへとステップアップ。
 - 『久米島らしさ』とは、歴史的に形成されてきた【自然】【生業】【生活】から構成されるもので、久米島の自然環境の上に築かれた人々の暮らしや文化が、現在の『久米島らしさ』に繋がっている。
 - 一方、『SDGs』では、あらゆる側面で持続可能な開発を実現するために、「環境・経済・社会の三側面を統合する必要がある。」としている。
 - 『地域らしさ』と『SDGs』は、【自然＝環境】【生業＝経済】【生活＝社会】と、互いに相似しており、『久米島らしくあり続けることが、持続可能な開発・しまづくり』と言える。
 - これまで歴史的に築かれてきた「久米島らしさ」を大切にすることで、島への愛着を醸成し、島の魅力を高め、島の活性化・発展の原動力に繋げる。
- (例)「夢つむぐ島 未来につなぐ久米島らしさ」

◆基本目標(案)

【生活・暮らしの基本目標(案)】

「みんなが生き活きと、心豊かに暮らせる島づくり」

子育て・教育機能、医療・福祉機能、生活・交通インフラ等、生活基盤・環境のさらなる充実を図るとともに、久米島らしい文化・行事・コミュニティ等を未来に受け継ぎます。これにより、島で暮らすすべての住民が、自然環境や地域社会との調和を大切にしながら、自分らしく充実した暮らしを実現するための、居心地の良い島づくりを目指します。

【生業・産業の基本目標(案)】

「力を合わせて活気を生み出す島づくり」

産業ごとの発展や生産性向上を目指すとともに、各産業の季節的な繁閑に応じたマルチワークや、各産業の協業による商品開発・島内消費拡大等、産業間の連携をこれまで以上に強化し、業界・分野を横断した産業全体の振興を図ります。これにより、地域ブランディングの効率化、地域資源の高付加価値化等、町内産業全体での相乗効果の創出を目指します。

【自然・環境の基本目標(案)】

「美しい景観を残し・活かす、自然と共生する島づくり」

島で暮らす多くの住民に愛されている、久米島らしい自然・景観や文化財等を保全し、未来に残していくとともに、観光資源や地域ブランディング、地域教育等の魅力的な資源として、積極的な活用を図ります。
また、再生可能エネルギーの利用等、環境負荷の少ない持続可能な島づくりを目指します。

【統合の基本目標(案)】

生活・産業・自然が調和し、個性が輝く島づくり

官民学連携や役場内の連携など、3つの要素が連動するための体制を強化するとともに、島内の適切な土地利用誘導や、久米島の地域特性に合ったデジタルインフラ整備・デジタル技術導入等を図ります。
3要素を繋ぎ、相乗効果を創出するとともに、久米島らしく個性が輝く、持続的な発展を目指します。

2. 島づくりの基本目標

「(仮) 夢つむぐ島 未来につなぐ久米島らしさ」を実現するために、久米島らしい「生活・暮らし」「生業・産業」「自然・環境」をより良く伸ばし、不安なことは解決・改善させる『島づくり』が必要不可欠です。

新しい総合計画では4つ基本目標を定めます。3つの視点を繋ぎ、組み重なり合わせ、お互いを高め合う役割となる「統合」の視点で島づくりを進めていきます。

<div>将来像</div> <div>夢つむぐ島</div> <div>未来につなぐ久米島らしさ</div>	<div>【生活・暮らしの基本目標】</div> <div>みんなが生き活きと、心豊かに暮らせる島づくり</div> <div>子育て・教育機能、医療・福祉機能、生活・交通インフラ等、生活基盤・環境のさらなる充実を図るとともに、久米島らしい文化・行事・コミュニティ等を未来に受け継ぎます。</div> <div>これにより、島で暮らすすべての住民が、自然環境や地域社会との調和を大切にしながら、自分らしく充実した暮らしを実現するための、居心地の良い島づくりを目指します。</div>	<div>◆方針</div> <div>・住民が必要とするサービスの充実や、それに従事する人材の確保・育成等</div> <div>・医療・福祉施設等の機能の維持</div> <div>・文化・行事・コミュニティ等の保全・継承と、地域社会の連帯感強化</div> <div>・住宅及び住環境の整備や、生活インフラの充実等、長く住み続けられる環境整備による、移住・定住の促進</div> <div>・久米島ならではの島しょ型交通体系の整備・運用検討</div>
	<div>【生業・産業の基本目標】</div> <div>力を合わせて活気を生み出す島づくり</div> <div>産業ごとの発展や生産性向上を目指すとともに、各産業の季節的な繁閑に応じたマルチワークや、各産業の協業による商品開発・島内消費拡大等、産業間の連携をこれまで以上に強化し、業界・分野を横断した産業全体の振興を図ります。</div> <div>これにより、地域ブランディングの効率化、地域資源の高付加価値化等、町内産業全体での相乗効果の創出を目指します。</div>	<div>◆方針</div> <div>・各産業が連携する横断的な産業振興と、マルチワーク・雇用拡大・担い手確保等の検討</div> <div>・産物の価値向上や地消地産の促進等、一次産業の活性化と6次産業化の推進</div> <div>・商店街の活性化等による、人が集まる仕組みやエリアの構築検討</div> <div>・地域資源を最大限活用した観光振興による、各産業の島内消費量増加</div> <div>・生産環境の改善に向けた産業基盤の更新・リニューアル、スマート化検討</div>
	<div>【自然・環境の基本目標】</div> <div>美しい景観を残し・活かす、自然と共生する島づくり</div> <div>島で暮らす多くの住民に愛されている、久米島らしい自然・景観や文化財等を保全し、未来に残していくとともに、観光資源や地域ブランディング、地域教育等の魅力的な資源として、積極的な活用を図ります。</div> <div>また、再生可能エネルギーの利用等、環境負荷の少ない持続可能な島づくりを目指します。</div>	<div>◆方針</div> <div>・自然・景観・文化財等を保全・継承するとともに、地域資源として活用</div> <div>・循環型社会の構築により、環境負荷の低減を図る</div> <div>・脱炭素やカーボンニュートラルの実現に向けた再生可能エネルギー自給率の向上</div>
	<div>【統合の基本目標】</div> <div>生活・産業・自然が調和し、個性が輝く島づくり</div> <div>官民学連携や役場内の連携など、3つの要素が連動するための体制を強化するとともに、島内の適切な土地利用誘導や、久米島の地域特性に合ったデジタルインフラ整備・デジタル技術導入等を図ります。</div> <div>3要素を繋ぎ、相乗効果を創出するとともに、久米島らしく個性が輝く、持続的な発展を目指します。</div>	<div>◆方針</div> <div>・久米島の地域特性に合ったデジタル技術の導入・活用の推進</div> <div>・土地利用・インフラ・交通・施設管理等の方向性を示す空間構想づくり</div> <div>・「生活（社会）」、「生業・産業（経済）」、「自然（環境）」が連動し、課題解決に向かうための体制（庁内連携、官民学連携）強化</div>

※画像はレイアウトイメージ作成のために使用しています。
画像イメージ出典：<https://www.ac-illustr.com/>

レイアウトイメージ

三側面の横糸が、統合の縦糸で紡がれ、久米島らしさ「文様」が発現する。その紬は、衣装にもなるし、新しい形になる。それは時代の中で表現が変化するが、紬に込められた「久米島らしさ」は変わらず引き継がれていく。＊表紙デザインにも関連

5.将来島づくり空間構想

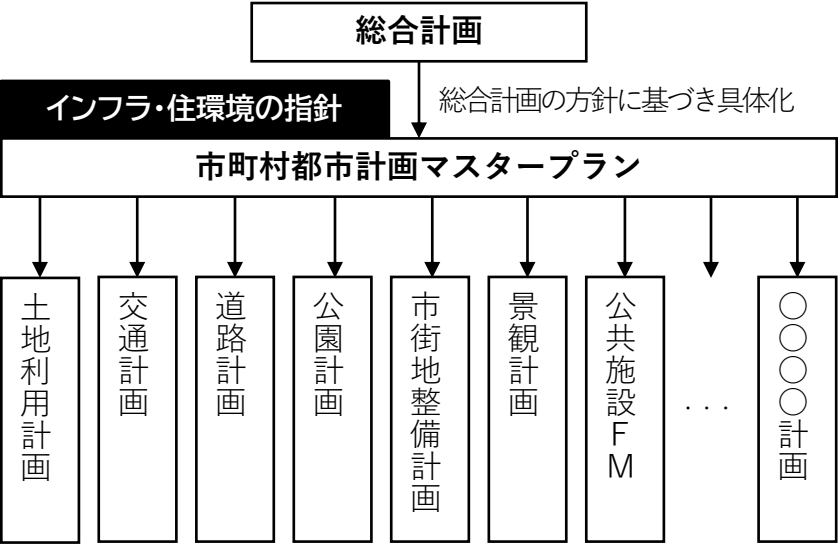
環境整備(インフラ・住環境)の方向性を示す空間構想

インフラ・住環境を束ねるマスタープラン

- 沖縄本島の一部市町村、宮古島市及び石垣市に都市計画区域が設定されており、その市町村それぞれが、地域特性に合わせた土地利用や公共交通、市街地整備、インフラ整備などの方向・方策を示した都市計画マスタープランが策定されている。
- 久米島町においては都市計画区域外となり、しまづくりの統合的な空間方策を示す計画を任意で策定する必要がある。
- 土地利用、道路・公共交通、集落環境整備を束ねる“しまづくり構想図”を総合計画の基本構想に設定し、将来のインフラ整備・住環境整備の在り方を示したい。

まちづくり計画の体系イメージ

都市計画区域の市町村の場合



都市計画マスタープランに基づき、
インフラ・住環境に関する計画や事業が連動・連携して実施

県内の都市計画区域（7区域）

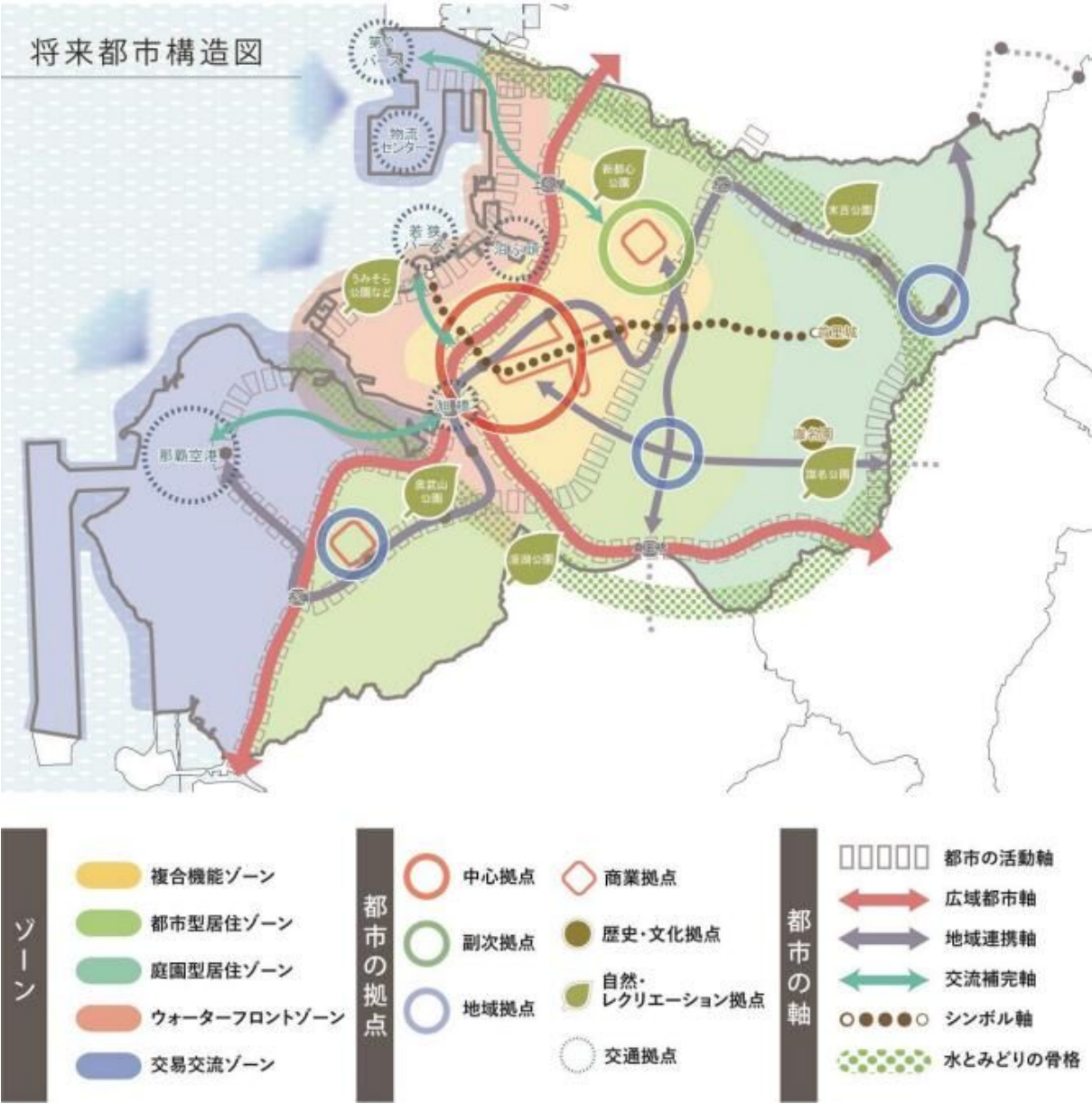
- 【那覇広域都市計画区域】那覇市、宜野湾市、浦添市、糸満市、豊見城市、北中城村、中城村、西原町、与那原町及び南風原町の全域並びに八重瀬町の一部
- 【中部広域都市計画区域】沖縄市、うるま市、読谷村、嘉手納町及び北谷町の全域
- 【宮古都市計画区域】宮古島市の一部
- 【石垣都市計画区域】石垣島の全域
- 【名護都市計画区域】名護市の全域
- 【本部都市計画区域】本部町の全域
- 【南城都市計画区域】南城市の一部

「都市計画マスタープラン」に【将来都市構造】を位置づけ、将来の都市づくり方向性を示す。
将来都市構造とは、将来の都市の姿を骨格構造として表現するものであり、「ゾーン（面）」「軸（線）」「拠点（点）」の3つの要素を概念的に捉えることで、効率的かつ適切な都市づくりの方向を導くことを可能とするもの。土地利用や交通、市街地整備のレイヤー（方針）が重なるものである。

例示

環境整備（インフラ・住環境）の方向性を示す空間構想の例（将来都市構造図）

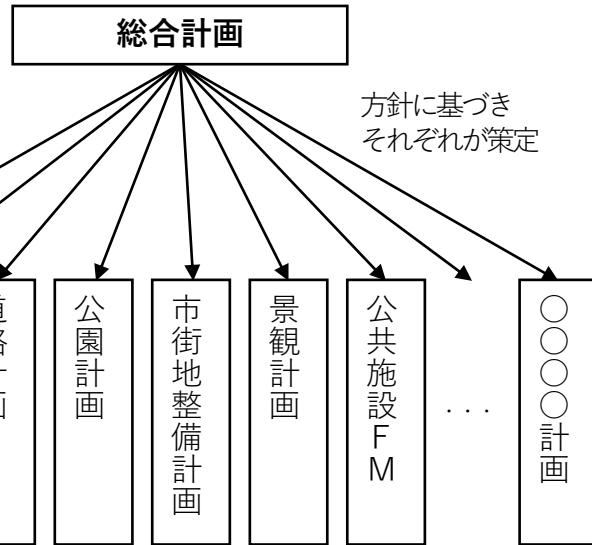
那覇市都市計画マスタープラン



・・・簡単に説明すると・・・
将来の都市の姿を描いた大きな地図が「将来都市構造図」
公民館や学校、病院などの公共施設の在り方、
土地の使い方、優先的なまちづくりの方向性を示した
都市づくりの設計図といえます。

まちづくり計画の体系イメージ

都市計画区域外の市町村の場合



インフラ整備・住環境整備を束ねる計画がないため、ちぐはくなまちづくりになる恐れがある。

久米島では、そうならないように、総合計画に将来都市構造の役割を担う空間構想を位置付ける

空間構想に関連する久米島町の計画（例）

- 第2次久米島町国土利用計画
- 久米島町景観計画
- 久米島町空家等対策利活用計画
- 久米島町地域防災計画
- 久米島町公共施設等総合管理計画

既存計画の考え方を踏襲しながら、今後の見直しや新たな計画づくりの指針として作成する

空間構想に関連する今後必要と想定される計画（例）

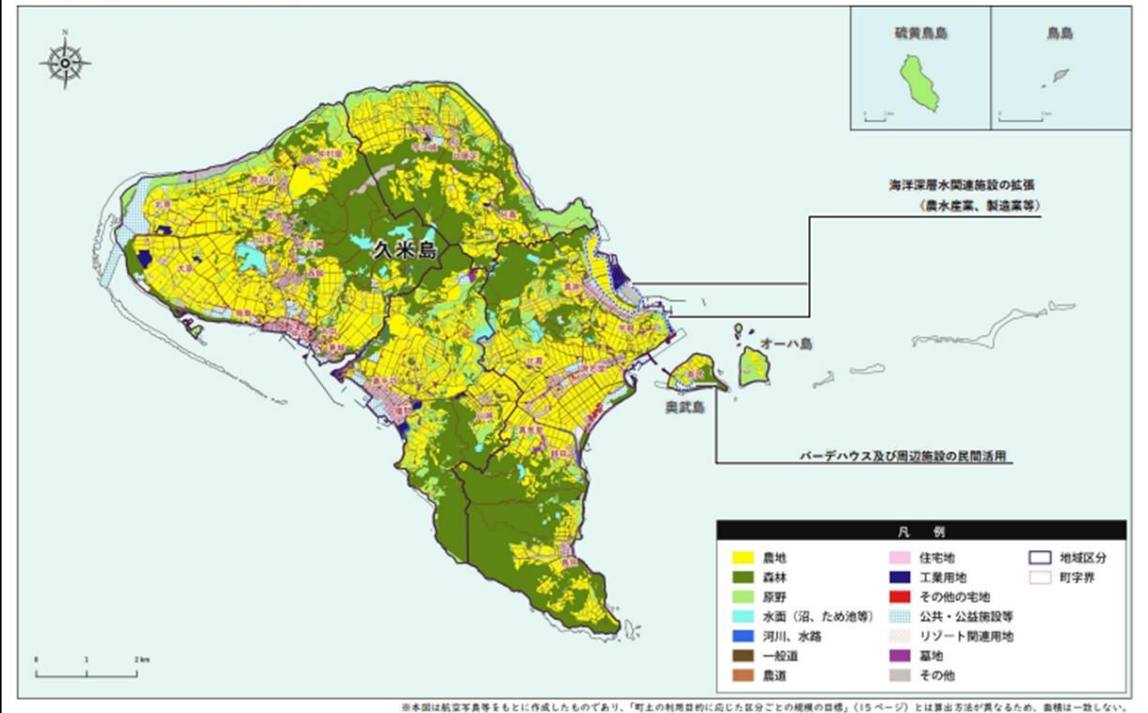
- 道路整備プログラム
- 地域公共交通計画
- 農村地域整備計画（集落整備・インフラ整備の計画）

空間構想を検討する上で重要な計画「第2次久米島町国土利用計画」

◆将来像

暮らしの質を高める土地利用
豊かな自然環境と歴史・文化を守り引き継ぐ
災害に強く安全で安心して暮らせる島づくり
地域内外の交流の活性化に資する島づくり

土地利用構想図（令和12年）



特徴

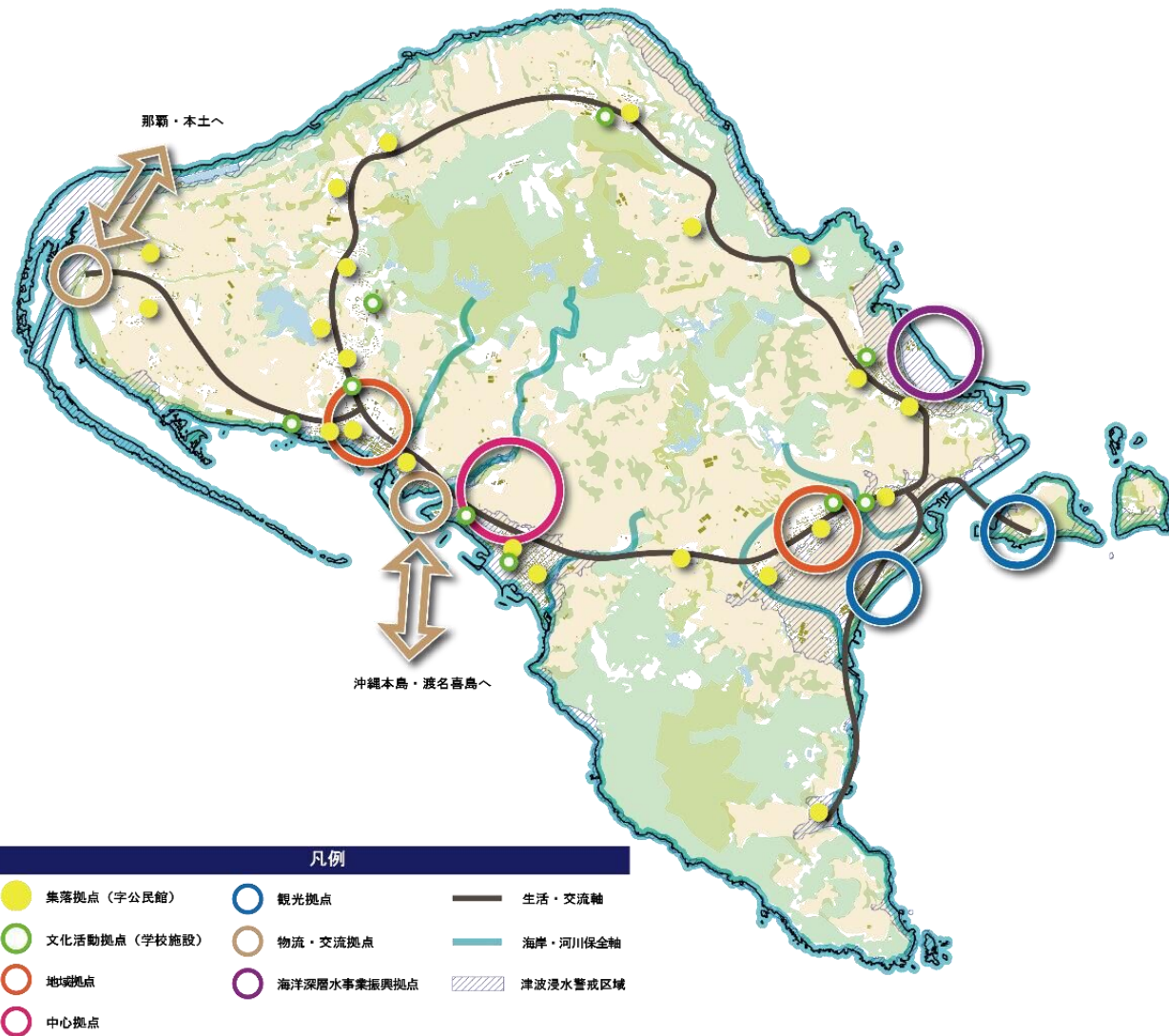
- 市街地エリア、周辺住宅エリア、文教・医療・防災等拠点エリア、観光リゾートエリアなどに分類し、それぞれで土地利用の方向性を示している。
- 特に、文教・医療・防災等拠点エリアにおいては、久米島の中心機能として、中長期的な視点から教育、歴史・文化、医療、福祉、防災の拠点性の強化を図り、高質かつ安定的にサービス等を提供できる体制の構築を推進することとしている。
- 市街地エリアについて、商店街や店舗が集積する場所とし、生活サービス機能、公共サービス施設等の集積を推進、住宅地における低利用地、空き地、空き家、空き店舗の利活用を促進することを位置付ける。

土地利用の関する面的な方向性が示される。
一方、道路や公共交通の関連性が希薄である。

集落整備や公共施設の方向性を含んだ面（エリア）、線（ネットワーク）、拠点（点）を重層的に表現した「島づくり空間構想」により、将来の土地利用インフラ・住環境整備の在り方を総合計画に位置付ける。

◆アウトプットイメージ(たたき台)

将来島づくり空間構想



住宅地

- 字公民館を地域コミュニティの中心機能として強化させ、共助・協働、つながりのある地域づくりを支援
- 集落（住宅）が無秩序に広がらないこと、適切なインフラ整備・集落排水、伝統的集落形態の保全、景観形成、空き家対策、集落の防災機能強化、津波等の災害対策などを計画な土地利用を推進

森林等自然環境

- 山や河川、海浜、豊かな水、多様な動植物、特徴ある地形や地質など、久米島らしさを表す自然環境を保全・活用し、将来へ継承

農地

- 島の基幹産業（農業）を支える生産環境の維持・管理の徹底、生産基盤整備を推進

集落拠点

- 集落のコミュニティの中心となる字公民館を「集落拠点」とし、周辺地域住民のコミュニティや活動拠点として施設更新・機能強化・充実
- 高齢者の見守り、子どもたちの居場所として、関係機関や団体と連携し、よりよい施設運営をサポート

文化活動拠点

- 統廃合を検討する小学校・中学校は、久米島らしい教育が実現できる機能配置・環境整備を検討

地域拠点

- 飲食店やスーパー、銀行などが並ぶ道沿いや商店街を「地域拠点」とし、買い物、飲食、診療所、金融など地域サービスに必要な施設や機能の立地や誘導を推進
- 近隣集落と公共交通等でネットワークさせ、生活の利便性の向上を図る

中心拠点

- ほんのもり、博物館、久米島病院が集積するエリアを「中心拠点」とし、公共機能を始め、教育、医療・福祉、防災など、公益機能を誘導
- 各地域・拠点と公共交通等でネットワークさせ、利便性の高いコンパクトなまちづくり

観光拠点

- イーフビーチ通りは、飲食店や宿泊施設等の立地や誘導を図り、島民や観光客の賑わい・楽しめる環境整備やリゾートの空間演出を推進
- 奥武島は、環境保全と観光振興の両立を図り、レクリエーション空間として環境整備を推進

物流・交流拠点

- 港湾、空港が立地するエリアを「物流、交流拠点」として、美化及び景観形成、賑わい空間の演出を推進
- 港湾は島民の生活及び産業の振興に不可欠な物流の拠点であること、空港は町民や多くの観光客の玄関口となっていることに留意し、適切な維持・管理等を促進

深層水拠点

（海洋深層水事業進行拠点）

- 海洋深層水関連産業が集積するエリアを「海洋深層水事業振興拠点」とし、海洋深層水事業の振興や他分野への展開、海洋深層水の一層の利活用を図る

生活交通軸

- 島内の一周線を基本に、空港や奥武島、島内の地域や拠点をネットワークする道路を「生活交通軸」とし、地域住民の生活及び移動交通を支える
- 交通安全・防災の他、新たなインフラ機能の基盤として、維持管理、機能強化を図る

海岸河川保全軸

- 海岸や河川、これら周辺の自然環境を「海岸・河川保全軸」とし、地形や動植物の保全、清掃活動を推進
- 久米島の自然環境の維持に努めつつ、環境学習や体験、レクリエーションなどに活用を

6.デジタル技術の活用

デジタル技術活用の方針

デジタル技術は、地域の発展にとって非常に重要であり、地域固有の課題に対応するために必要不可欠な手段となってきた。

国が2019（令和元）年に策定した「デジタル田園都市国家構想総合戦略」では、デジタル技術を活用した地域活性化が掲げられており、地方は、それぞれの地域が抱える社会課題などを踏まえて、地域の個性や魅力を生かす地域ビジョンを掲げた「地方版総合戦略」の策定に努める必要がある。

久米島町においても、本町が抱える地域課題の解決や、更なる活性化を図るため、デジタル技術の導入を推進していく。

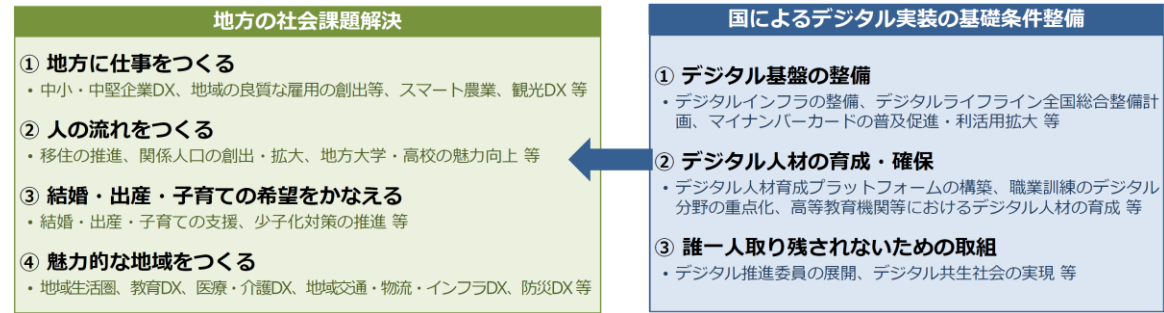
デジタル田園都市国家構想総合戦略(国計画)

「デジタル実装を通じて地方が抱える課題を解決し、誰一人取り残されずすべての人がデジタル化のメリットを享受できる心豊かな暮らしを実現する」という構想。

【基本的な考え方】

- 「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す。
- デジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化し、各地域の優良事例の横展開を加速化する。
- これまでの地方創生の取組についても、改善を加えながら推進する。

【施策の方向】



地方創生におけるデジタル技術活用の一般的なメリット(例)

1. 情報の透明性とアクセス向上

- デジタル技術を活用することで、地方自治体や地域の住民が情報に簡単にアクセス可能となる。
- 地方の産業や観光地、公共サービスの情報等をオンラインでの提供することが可能。
- これにより、地方への移住や観光客の誘致が進む可能性がある。

2. 地方の産業のデジタル化と効率化

- 農業、漁業、製造業など地方の主要産業において、デジタル技術の導入による生産性向上が可能。
- (例) IoTやAI活用による農作物の生育管理効率化、遠隔地での作業をサポートするシステム等の導入による労働力の補完等

3. 地方での雇用創出

- リモートワークやオンラインビジネスの普及により、都市部に依存することなく地方でも新たな仕事を生み出すことが可能になる。
- (例) 地方の特産品や観光資源を活用したECサイトの運営や、デジタルサービス業務等

4. 地域間の連携強化

- デジタル技術を用いることで、自治体間・地域間連携が容易になる。
- 例えば、オンラインでの会議やイベントを通じて、異なる地方の企業や自治体が協力し合うことができ、資源の共有やノウハウの交換が促進する。
- これにより、地域間での相互支援が強化され、地域全体の発展に繋がる可能性がある。

5. 住民サービスの向上

- 住民への行政サービスの効率化、利便性向上が想定される。
- (例) 行政手続きのオンライン化、地域の公共施設の予約システム、AIによる問い合わせ対応等

6. 地域課題への対応

- 地方特有の課題（人口減少、高齢化、医療・福祉の不足など）に対して、デジタル技術が解決策を提供することが可能。
- (例) 遠隔医療やロボット技術の導入による、高齢者へのケアや医療サービス提供のが効率化等

7. データ活用による地域資源の最適化

- 地域の特性や資源に関するデータを収集・蓄積することで、ニーズやトレンドの分析が可能。

第3次総合計画におけるデジタル技術活用に関する考え方

左記の方針に基づき、第3次総合計画においても、「デジタル技術活用」に関する記述を展開する。展開にあたっては、以下の点に留意する。

- デジタル技術の導入を「目的」としない。
- デジタル技術はあくまでも人の暮らし・生活をサポートする手段（道具）であり、それを活用する「人」の存在にフォーカスした地域の発展を描く。

基本構想における考え方

基本構想部分では、「デジタル技術の活用」に関する大まかな考え方を展開する。

【文案】

デジタル技術が急速に発展する昨今、デジタルは地方の社会課題を解決するツールであり、新たな価値を生み出す源泉となっています。

特に、離島地域におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）は、単なる技術的な変革にとどまらず、地域全体の生活水準や競争力の向上に直結する重要な要素としてますます重要になり、久米島でも「便利で賢い暮らし」にとっても大事な要素の一つです。

しかし、最新で高性能なデジタル技術の導入だけでは、地域の持続的な発展にはつながりません。デジタル技術はあくまでも人の暮らし・生活をサポートする手段（道具）であり、それを活用する「人」の存在が、地域の発展には欠かせないからです。

『久米島の「生活・暮らし」「生業・産業」「自然・環境」の特性』に必要とされるデジタル技術を選択し導入することで、地域コミュニティが結束し、島民・団体・行政・関係人口など、久米島にかかわるみんなが力を合わせて久米島らしさを強くし、一人ひとりの暮らしの充実、地域の活性化や産業発展、好循環な環境づくりを促進します。

基本計画における考え方

基本計画部分では、具体的な導入分野の考え方を、リーディングプロジェクト（重点施策・複合施策）や、基本施策（個別施策）ごとに展開する。

基本計画への具体的な記載項目や表現等については、今後の庁内委員会、審議会等で検討を行うこととするが、現時点での、本町で導入可能性のあるデジタル技術を以下に示す。

【久米島町で導入可能性のあるデジタル技術（例）】

●効率的な地域資源管理

- 農業：スマート農業による灌漑システム自動化や、ドローンによる農薬散布等。
- 漁業：衛星データやドローンを活用した漁場の監視や、漁船と市場の連携による需給管理等。
- 森林資源管理：ドローンやセンサーによる、森林の健康状態監視や、適切な伐採等。

●観光業の発展と地域経済の活性化

- バーチャル観光や拡張現実（AR）活用による、来島前の仮想体験提供。
- 観光アプリやオンライン予約システムの導入。
- 地元の特産品や文化のデジタルプラットフォーム販売等。

●人口減少・高齢化対策

- 久米島に住みながら都市の仕事ができるテレワーク環境の整備。
- 自動運転や島しょ型交通体系整備、遠隔医療、見守りシステム等、子どもや高齢者がより快適に生活できる環境の創出。
- デジタルヘルスケアや遠隔医療の導入等により、住民の健康管理や高齢者支援の効率化。

●災害時の迅速な対応

- 地震や洪水の予測システム、ドローンを使った被害状況の確認等による、災害発生時の初動対応の迅速化。
- 緊急通報システムや地域住民向けの情報アプリの導入による、住民への災害時の情報提供。

●行政の効率化と地域住民の負担軽減

- オンラインでの行政手続きや情報提供により、自宅等からサービスの利用が可能。
- 住民の問い合わせ対応やサービス提供へのAI導入により、行政サービスに関する人的リソースの負担軽減。

●地域間の格差縮小

- リモートワークやオンライン教育により、都市部と変わらない仕事・教育が可能となり、経済的格差や機会の格差が縮小。
- 住民に対するデジタル教育の実施により、地域全体のITリテラシーが向上し、新たなビジネスやサービス創出の土壌をつくる。